

登録雑音を考慮した複合通信路を伴う生体識別システム

Biometric identification system with compound enrollment channels

吉村 海渡*
Kaito YOSHIMURA八木 秀樹*
Hideki YAGI* 電気通信大学 大学院情報理工学研究科
*The University of Electro-Communications

1 はじめに

生体識別システム (BIS: Biometric Identification System) についての研究は広く行われている [1],[2]。文献 [1] では、登録雑音を考慮した単一通信路を伴う GS-BIS (Generated Secret-BIS) の容量域が特徴づけられており、文献 [2] では、登録雑音を考慮しない複合通信路を伴う GS-BIS の容量域が特徴づけられている。本稿では、登録雑音を考慮した複合通信路を伴う GS-BIS の容量域を解析する。

2 システムモデル

登録雑音を考慮した複合通信路を伴う GS-BIS のシステムモデル (登録過程と識別過程) を図 1 に示す。

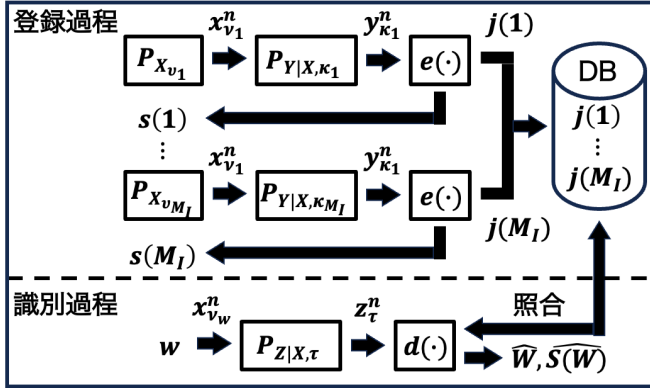


図 1 登録雑音を考慮した複合通信路を伴う GS-BIS

(I) 登録過程: M_I 個の個体の生体情報を登録する。個体 $i \in \mathcal{I} \triangleq [1 : M_I]$ の生体情報系列 $X_{v_i}^n \in \mathcal{X}^n$ は、状態 ν_i における確率分布 $P_{X_{v_i}} \in \{P_{X_{\nu}}, \nu \in \mathcal{V}\}$ に従い、独立同分布で生成される。ただし、 \mathcal{V} は生体情報の状態集合を表す。ここで、 $P_{X_{v_i}}$ は $P_{X|V=\nu_i}$ の略記である。

$$P_{X_{v_i}^n}(x_{v_i}^n) = \prod_{t=1}^n P_{X_{v_i}}(x_{v_i,t}). \quad (1)$$

生成された生体情報系列 $X_{v_i}^n$ は、登録通信路 $P_e (= \{P_{Y|X, \kappa} | \kappa \in \mathcal{K}\})$ を通して、 $Y_{\kappa_i}^n \in \mathcal{Y}^n$ として観測される。ただし、 \mathcal{K} は登録通信路の状態集合を表す。符号器 $e(\cdot)$ は $Y_{\kappa_i}^n$ を観測して、符号語 $J(i) \in \mathcal{J} \triangleq [1 : M_J]$ と秘匿情報 $S(i) \in \mathcal{S} \triangleq [1 : M_S]$ を生成する。

$$(J(i), S(i)) = e(Y_{\kappa_i}^n). \quad (2)$$

符号語 $J(i)$ は公開データベースの i 番目に格納され、秘匿情報 $S(i)$ は秘匿性を保ったまま個体 i に渡される。

(II) 識別過程: 事前に登録された未知個体 w の生体情報系列 X_w^n は、識別通信路 $P_i (= \{P_{Z|X, \tau} | \tau \in \mathcal{T}\})$ を通して、 $Z^n \in \mathcal{Z}^n$ として観測される。ただし、 \mathcal{T} を識別通信路の状態集合とする。復号器 $d(\cdot)$ は Z^n を観測すると、DB 内の符号語 $\mathcal{J}_{M_I} \triangleq [J(1) : J(M_I)]$ と照合して、個体インデックスと秘匿情報の組 $(\widehat{W}, S(\widehat{W}))$ を推定する。

$$(\widehat{W}, S(\widehat{W})) = d(Z^n, \mathcal{J}_{M_I}). \quad (3)$$

3 達成可能性と容量域

定義 1 任意の $\delta > 0$ と十分に大きい n に対して、式 (4)–(8) を満たす符号器と復号器の組が存在するとき、レート組 (R_I, R_S, R_J, R_L) は達成可能であるという。ここで、 $B_{\nu, \kappa, \tau} = \{V = \nu, K = \kappa, T = \tau\}$ とおく。

$$\sup_{\nu, \kappa, \tau} \Pr\{(\widehat{W}, S(\widehat{W})) \neq (W, S(W)) | B_{\nu, \kappa, \tau}\} \leq \delta, \quad (4)$$

$$\log M_I \geq n(R_I - \delta), \quad \log M_J \leq n(R_J + \delta), \quad (5)$$

$$\inf_{\nu, \kappa, \tau} H(S(W) | B_{\nu, \kappa, \tau}) \geq n(R_S - \delta), \quad (6)$$

$$\sup_{\nu, \kappa, \tau} I(X_{\nu}^n; J(W) | B_{\nu, \kappa, \tau}) \leq n(R_L + \delta), \quad (7)$$

$$\sup_{\nu, \kappa, \tau} I(J(W); S(W) | B_{\nu, \kappa, \tau}) \leq n\delta. \quad (8)$$

すべての達成可能なレート組 (R_I, R_S, R_J, R_L) の集合を、GS-BIS モデルの容量域といい、 \mathcal{R}_G で表す。□

定義 2 GS-BIS モデルを特徴づけるレート領域を定義する。

$$\mathcal{A} = \{(R_I, R_S, R_J, R_L) : R_I \geq 0, R_S \geq 0,$$

$$R_I + R_S \leq \min_{\nu, \kappa, \tau} I(Z_{\tau}; U_{\kappa}),$$

$$R_J \geq \max_{\nu, \kappa, \tau} \{I(Y_{\kappa}; U_{\kappa}) - I(Z_{\tau}; U_{\kappa})\} + R_I,$$

$$R_L \geq \max_{\nu, \kappa, \tau} \{I(X_{\nu}; U_{\kappa}) - I(Z_{\tau}; U_{\kappa})\} + R_I,$$

$$\text{for some } U_{\kappa} \text{ s.t. } Z_{\tau} - X_{\nu} - Y_{\kappa} - U_{\kappa}\}. \quad (9)$$

ここで、補助確率変数 U_{κ} は有限集合 \mathcal{U} ($|\mathcal{U}| \leq |\mathcal{Y}| + |\mathcal{V}|(|\mathcal{T}| + 1)$) に値をとる。□

登録通信路 $P_{Y|X, \kappa}$ と識別通信路 $P_{Z|X, \tau}$ の出力は ν にも依存するため、領域 \mathcal{A} に現れる $I(Z_{\tau}; U_{\kappa})$ および $I(Y_{\kappa}; U_{\kappa})$ は (ν, κ, τ) に関して最大化 (最小化) をとる必要がある。

本研究では、 \mathcal{R}_G を系列長 n に依存しない形で特徴づけることが課題であり、次式の定理が示される。

定理 1 $\mathcal{R}_G \subseteq \mathcal{A}$. (10) □

定理 1 では領域 \mathcal{A} が容量域 \mathcal{R}_G の外界になることを示しているが、登録通信路が無雑音の場合 (文献 [2])、領域 \mathcal{A} と容量域 \mathcal{R}_G は一致する。また本研究のシステムモデルの情報源と通信路の状態数が 1 つの場合は、文献 [1] の結果と一致する。

4 今後の方針

領域 \mathcal{A} が GS-BIS モデルの容量域 \mathcal{R}_G の内界になることを証明することと、CS-BIS (Chosen Secret-BIS) の容量域を特徴づけることを予定している。

参考文献

- [1] V. Yachongka and H. Yagi, "Fundamental limits of biometric identification system under noisy enrollment," *IEICE Trans. Fundamentals*, vol. E104-A, no. 1, pp. 283–294, Jan. 2021.
- [2] L. Zhou, "Information-theoretic Privacy and Secrecy in Biometric Identification and Authentication," Doctoral Thesis, KTH Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden, 2022.